





山崎 三行 而乃 塚 之 一 臺

裸才に佛 哉 宵 夏 心 多 美 角

弓 七 と き く 正 一 神 の 勢

く かり 之 かり 之 眼 く 悲 之 ろ

う 之 子 づ ー 了 草 此 弦 心 上

未 畧

月 之 音 の 一 此 翁 舞 出 上 菫 村

名 月 や 赤 菫 の 鬼 神 強 て 出 凡 菫 村

月 信 一 二 人 女 け け 岩 の 男 集 弓

月ノ二

か 可 一 語 や 翁 一 此 凡 八 意 乃 月 月 居

弓 之 の 古 菫 焉 一 不 有 菫 一 形 月 溪

名 月 や 菫 乃 や 一 大 之 竹 之 吞 溟

白 溪 小 玉 藻 び ろ 一 正 月 之 音 兔 舟

名 月 や 文 て 一 音 此 月 魯 人

汐 川 や 月 小 棹 さ 身 紫 小 弘 路 巧

雲 を 一 人 の 吟 ち て 月 見 蛭 水

号 一 此 凡 了 一 一 月 の 一 凡 陸 成

蘇々上月よりこゝろくまかよ
 青戸に小碓うちく月見うか
 晴珠る雲にうらみや青此月
 置家不悟を残り月の山
 うら免し秋を上月に夜明か
 公子子
 樗良

秋の句
 去ききより新より弱し秋の風
 巧きくく暮さぬぬ而乃中
 去の秋や猿しる秋のあらし
 美角
 南雅
 鵜子

月ノ三

小舟より瓜子粉乃の踊りり形
 秋のあらし後より吹く秋乃風
 水うねる穂蓼にせりる秋の色
 秋のあらしれまや二日ふ
 麻笛を奏しふりも哀し
 竹青や苞乃蛇しあう何せ
 公海や舟をと吹くまんと
 破道心やいさく如く一と一
 花より起多秋は秋工想くも
 反榜乃下に芳吹くあらしり如
 兔角
 定雅
 我則
 李音
 玄化
 白碓
 九湖
 竹裡
 自笑
 秦夫

文乃を〜に望山
秋の布句

雁乃毛の現に而此夜明く新
 阿やうさや白菊のう〜をきり月
 ありくと濃柿つうは秋をきり
 月のきり厚きうを記のる重
 七夕ハ高乃き宮此ちきりう系
 吹乃〜は是此柵のあき乃風
 路々あれ〜海に吹入る秋の風
 よ〜くあき浪よりおころ秋の風

陸史 左丈 文垂 木吾 太し 侶岸 越鳥 泗筌

月、四

尚望や月の夜を吹あき乃風
 音伝う折く〜ゆけを秋乃風
 此氣照る日にあゆ〜れ小
 秋心〜う〜置ん阿手〜れ
 白妙のあ乃里あ〜うつ石
 新秋乃阿〜れ小水を吹か〜
 世の中や山に霧迷ハ麻乃声
 名月の割〜布玉極つ〜地
 嬌〜き〜志〜き〜映る月見
 秋風の寒〜き〜秋葉此〜う〜記小

羽毛 馬有 臣淵 一芥 波泉 春路 百史 中二 青雅 越蓋

夕々れや風より奥の三日の月
和筈
家出の月乃世の可きハも魂系
奥春

露を分てうりくく虫のまき瓜
真池

稲妻の細歩足くく何れれし
燕々

ふるりとま皆志くく家の踊くく如
畎司

雲細く半にわくく其三日の月
竹茂

天の川乃中吹るる何くくく
岐東

孫かくくの架り孫まり風乃月
古菱

海一坊や遠山里此三日の月
畎波

月、五

雨乃後くくく僅れみ葉く系
百合
山沢や水くく涼くく女郎花
居来
り秋や月さくくなくて於悲く
子刈
身乃蝶いつの曉よりか如く
琴水
曙や海の果よりくく若の夢
大器

仲秋湖南に於て

石山やのくくくく海の月
曉臺

余無四季混雜

種子やや	哉	て	あ	る	久	の	月	素由
訪ふ人	小	庭	く	遠	く	其	乃	五
五月	而	に	埒	雁	計	の	風	伴
味	り	形						山
明	く	く	其	那	き	や	小	友
料	の	家	乃	玉				花
為	く	人	く	其	か	く	其	梅
吹	言	は						父
一	家	の	鏡	中	く			市
乃	乃							芳
形	風	小	糸	く	何	く	や	艸
形	さ	く						巴
其	此	形	や	起	く	ま	く	如
之								之
乃	乃	高	余	く	白	く	く	竹
也								也

月六

坊	遠	ふ	人	も	く	む	一	此	秋	の	今	れ	兔
東	風	吹	く	梅	の	阿	く	り	を	さ	る	か	柳
子	と	も	ホ	り	経	よ	く	其	多	や	音	仏	丁
涼	風	り	く	こ	も	よ	く	月	の	空	く	形	文
去	の	風	長	刀	の	細	く	白	ふ	り	那		涼
風	や	あ	る	梅	の	光	り	乃	石	く	う	り	袴
其	柳	の	み	く	け	く	ゆ	め	る	嵐	り	形	寒
涼	一	さ	や	く	く	く	く	々	音	の	松	乃	葉
夫													夫

花のみくけきても心の似くもか
坡仄

野梅 花紅 龍石 虎國 江州 素濤 桂舟 乙序 竹所 茶州
野梅 花紅 龍石 虎國 江州 素濤 桂舟 乙序 竹所 茶州
野梅 花紅 龍石 虎國 江州 素濤 桂舟 乙序 竹所 茶州
野梅 花紅 龍石 虎國 江州 素濤 桂舟 乙序 竹所 茶州
野梅 花紅 龍石 虎國 江州 素濤 桂舟 乙序 竹所 茶州

月七

野梅 花紅 龍石 虎國 江州 素濤 桂舟 乙序 竹所 茶州
野梅 花紅 龍石 虎國 江州 素濤 桂舟 乙序 竹所 茶州
野梅 花紅 龍石 虎國 江州 素濤 桂舟 乙序 竹所 茶州
野梅 花紅 龍石 虎國 江州 素濤 桂舟 乙序 竹所 茶州
野梅 花紅 龍石 虎國 江州 素濤 桂舟 乙序 竹所 茶州

野梅 花紅 龍石 虎國 江州 素濤 桂舟 乙序 竹所 茶州
野梅 花紅 龍石 虎國 江州 素濤 桂舟 乙序 竹所 茶州
野梅 花紅 龍石 虎國 江州 素濤 桂舟 乙序 竹所 茶州
野梅 花紅 龍石 虎國 江州 素濤 桂舟 乙序 竹所 茶州
野梅 花紅 龍石 虎國 江州 素濤 桂舟 乙序 竹所 茶州

梅、多や嵐の中乃ちくく風
家師あり井に並くく其乃梅
門是くく土に少くく其瓜の皮
山吹や散るくく形き其のく
其の月袋くく其くく其く
半くくにさくく其れを其の男麻糸
起るの跡跡くくゆくやまき
風くくくくやくくく起る女師花
石換くく其くく其くく其く
其くく油くくくく其くく其く

芭竹
逸漢
弘巨
芳望
負川
百龜
故吾
秋水
斗南
蘿父

月ノ八一

梅、多や嵐の中乃ちくく風

宗居

明月や松にまきくくん其くく
其くく其くく其くく其くく
私乃脚 月三寸の強きく
其くく其くく其くく其くく
月と其くく其くく其くく其くく
長招くく其くく其くく其くく
汐風や一羽乃雁のくく其く
干孫やまきくく其くく其く

葵子
龜友
右跡
志慶
霞東
鳴鳳
魯谷
袖女

夕如れて朝日にしつや小萩系
 守一
 白堂
 早今や月を何れも何れも
 士巧
 若啼や丹波系くくく小面系
 士喬
 秋風や柳をみれば松を系
 士川
 羨生く系く心家にぬくく系
 佳則
 うき並や系く系列系麻乃系
 大魯
 羨ゆくくうはくせう系起碇系

月九

黄蕙系系系系家大きく系り系
 蓼之
 萩系系系系系系乃日系り系
 正名

十六夜の月を思崎乃造り
 又九りく世乃庵系入

真春

夕川系系系系系の系
 益系系系系系と系戯系系

茶碓系系酒を飲む系乃系
 樗良
 生壁の冷氣系大系風邪系列系
 越蓋
 往系系系系系系系系系系系
 定雅

折阿けらあし降而のうらき日に
まゝ桑のふられうらむそのま
田ふぬやくうらけもあひしけき
連舞はえへくひことやあけり
うら玉のまきお織を長くまき
新足れハ狂作しせうおれく
歌詠今し配所のまきまき
蛸小くしれし子まえつ乃年
入はし軍兵まきまきし置まき
月出しき日くく小まきし冷

美角 春 良 蓋 雅 角 春 良 蓋 雅
月ノ十

二階くくあおぬく下り流様の傍
まきまきやまきまき 雷うまきまき
まきまきし花まきまき心のおあけり
山吹のやに一夜まきまき

角 蓋 春 良

鳴くくあけりまきのまきまき乃まき
思ふ月をいとくまきの秋の風
眼まきまきまきまきまき 秋乃まき
おまきまきまきまきまき 秋のまき
まきまきまきまきまき 秋のまき

音 銭 長 河 凡 夫 野 乙 岩 下

新島や翁をかしくささのうへ
可緒

若の音此情よ通ふかさりし如
春路

秋とくもに別とハ志くく秋の暮
如今

咲ほゆと松ふやうく女郎を
羅川

新秋や舟かうもちていきく如
戸圭

少く栗めかく一落らんあきの月
萬柳

殊蚊よ喰まきく情一曉乃月
昌平

社あく麻を中夜の友も如く
雲良

石山の月や夜まきく秋の暮
馬曹

小田と一麻退ふあも樹たて
車螭

何と氣の無も穂よゆて踊りか
鳳五

かきくや静に時のうらりゆく
江涯

九月やひと志まきりつて菊薫る
斗醉

月、土

名月や空吹きつゝ静形
 水乃月秋の意ふりき奈りけ
 何けおのやふ浪かゝる花のつゝ
 茄子引く菊の蒼の見ゆりけ
 直生
 北野
 瓜涼
 布舟

月みく夜集終
 安永五年丙申仲秋

月ノ終

時雨笛

と多き洛の糸系えんと毎神月と一巻の日
三条に吾我接し一巻の菴を玉を討く心
併き遠くに通きすて人乃位つる家あり
りるをととと借うつてふつと吾我始手
水ををこむかき一菴之此く之好かふひつ
とに風狂の宗流を半のひ世我遠まじ
心し一夜を一椀の酒を多きををりし掛
り多くとやかくゆきををむしひ伝ら
安永万五丙申冬也越吹波誌

岸

於檜泊奇仙

小歌ししれ掛るの笛の音を喜うれ
首飾りきき西向乃まど
むく起と物半幸に頼まじ
奥此大豆の並乃つる風ころろ
名月此前後四五日よき天気
傘をりさして角力見よけり
多掛小まじり此氏を包みち
川に流さし人あまれなり
柳葉に菽乃雜木を伐出

吹波

檜良

春水

吹波

檜良

春水

定雅

檜良

吹波

河竹の屋敷ついでに
孫入も伯母此より増く
女房に見せく女仕もむかく
芙蓉小徳乃念佛たまりて
吟と志しけ馬賊を賣り
玉苗のさびき後不翔り
児才媛を弦少くいろ巻く
月若小妾方心乃意こゝろ
郊と志のふみち乃く此を
半徳の上り難をかきり意

春水 樽良 吹波 春水 樽良 吹波 春水 樽良 吹波 春水

笛一

船後一候と云ふ
あゝいねき能堂乃生を
配く際子乃うちたれ
商人のうへてろ乃脱ケ
なてたうさありひまとき
白梅の陰う焼肉のうけ
為菜此居をうけ挿む
蔚陰せし大刀を長にさけ
声細くと喜政と風あり
朝の月尾勅化乃札を

樽良 吹波 定雅 樽良 春水 定雅 吹波 春水 樽良 吹波

廻向しあけぬ高のわく袖
 春水
 吾秋乃涙を指しおし裁ひ
 定雅
 つぶ祢起し中おほく酒
 畎波
 葦市に追く出ぬ故乃存
 樽良
 何つつ身おく風乃吹や
 定雅
 涅槃さむ山をく人
 春水
 極つけ羊の糞しおそく
 吞溟

笛二

時雨二章

山ささけし雨ささけし
 樽良
 志くれ初し山ささけし
 春水

高雄山ささけ

見ぬささけやみ葉静し色あさけ
 樽良
 地蔵院乃庭ささけ

苔の日乃てささけ
 春水

高堆のさ葉を志くれさち教さく
 細の尾ハ今を望し

日乃方此み葉もみちを奪ふ可れ
 畎波

十一日空也堂小詣

神をく祀法く場くくおとりの山崩臺

ちらたき子供の高似る勃く古 吹波

志中や私尚めてくきまらくく地 春水

鉢をく祀少くく踊りくく廻向く如 栲良

十二日芭蕉忌於毎力黄

奇仙

芭蕉をくくかひ茶を向る空く 栲良

早くくありハくくんまを於る 美角

笛三

軒ちりき換の爲茶夜まうくに 定雅

股所借やとく訂りうくまを 春水

夏く子に三日月見ま下駄を 吹波

遊か柳於河原乃 栲良

薫る柳積まく涙をぬき 美角

清伴ひくくく一巻乃うく 定雅

夜明て意ぬ眼く歯の痛く 春水

やれぬ的を村そんくま 吹波

嘗此移くまく啼 栲良

燈籠の火乃きゆ 美角

氣遠び乃急佛清き撞ぬり
夜臥を連しるるに遠びり
酔醒の後乃おれりて後り
まづりに出さるる體程くたり
夕月に馬乃かきりの花に葉
小春さやりに秋乃跡を
家をい葉つけを控へて
寺乃内候り遠くかく
枝木に後さきはきやうれ
腐りし流り垣牛一遠ふ

定雅
春水
畎波
樗良
美角
定雅
畎波
樗良
美角

笛四

此を吟ふ孤哉一なるを
あさかきりけふ坊之山伏
屋中に傾城雲を控ひり
りりかくかく首飾乃痛
稲荊よまきり通る笑の
旁うんくくこれかた月
ささや歴の中は霧乃夢
まろこ一人乃居つまふ
笠乃結の玉にやまきり
之葉此より心かきり

畎波
樗良
美角
定雅
畎波
樗良
美角
樗良

考く来ても辭れぬ親乃傍
 盤乃弥生殊勝まきし心
 雨止く花の咲ぬのちまね
 柳、ゆきゆき糸乃啼く
 美角 定雅 樽良 吹波

各詠

芭蕉馬や念佛もあつて静る
 ちまね馬やあつて中を歩
 達丁の画かけく芭蕉を歩
 吹波 春水 定雅

笛九

十歌於東山歌仙

片町を蜻蛉月さる十歌うね
 性来此はまきし棉の木あり
 背負ゆき水風呂桶の重くて
 歌の阿せをぬきふ多乃
 日蓋の門ト人あつて連歌坊
 かくさ包子我著しと
 下系を菜乃花咲く糞さる
 寺此は馬をり善のる
 ちまねに足さぬ娘つ道なで
 吹波 樽良 定雅 美角 正名 春水 吞溷 吹波

蘭臺

我乃日新と悲うおとろふ蘭臺
 月の只有る此師法をいふ人 定雅
 家此ゆふに好織うち急く 美角
 夫やみ小たれそ細き世を信す 正名
 味も多傳し一貨苦ふなり 春水
 池を穿つく来多き花建らる 吞溟
 麻轉く阿く於演乃石 吹波
 花をかさし拍子かうく喜路より 蘭臺
 傾城くふ板乃うけぬふ 橋良
 去の凡心うそちぬ色をえく 美角

笛六

去教くいこくく一色麻かち形 正名
 手附せし佛ちつきふわくと 春水
 吹ひおくわくく母乃一言 吹波
 多の日にあき仲の力不長く 蘭臺
 吹く手も自ふうり香此笛 定雅
 築垣う夏歩つ音を悲ひつ 春水
 鼓多し提く友中秘く人 吞溟
 海吹く情実しくく夕宮若 吹波
 阿奈此添風さまくあ身 正名
 落しくく藁を尋ぬ蔭月に 美角

新しかりけり〜是拍しり、
 定雅
 枝持えの火キを家に入らぬ〜
 吞涙
 大根積〜産乃かり〜すみ
 蘭臺
 消岩の産を日暮よとり〜
 定雅
 鹽の中〜這ふ子あきゆり
 春水
 散花り〜うり〜
 正名
 古あき〜粕の風あむみち
 美角

笛七

於美角辛傳哥仙一折

時ふ来〜ふ城名殊の詠詔を
 美角
 袖乃を〜
 吹波
 藤懐換居か〜年を産〜やん
 擗良
 坂乃下〜との親子信む者
 定雅
 砂月乃海〜り水多〜り
 吹波
 歴さ〜
 春水
 帰らさ〜
 定雅
 空〜
 美角
 二十五乃娘入極〜意の割
 春水

顔のわく為をとりて思ひの如
拵子乃花をくわくけいこうや
庭の泉乃音清出来くけい
屋くけい焚きくけいけいけい
茶席くけい母けいけい乃姉み
けいけい此廻向よ来む其の月
柳足不刻其堂乃極くけい
花の客尾の長さま気乃あきく
二人けい居眠る何くけいあき

檜良
美角
歌波
檜良
定雅
歌波
美角
定雅
檜良

笛八

錢別

ぬれなりや心新くぬくけいけいけいけい
水仙の花をきて看るけいけいけい
にくれんと後日くけいやうきさか
捨不きく物去けいけいけい
けいけい乃名もけいけい
夏のころけいけい
けいけいけいけいけいけい

蘭臺
定雅
春水
吞溟
檜良

留別

高きやるれそくすぬありひけい
百里けいけいけい神のホくけい

歌波
檜良

志之於笛終

執筆
吞溟

笛
終

波奈船燈巻

丁酉の暮涼生乃ちしりや
 はりて花散たつてはて嵐山
 小舟のいさよこしき情なく
 ほのりよきしきおのりあり
 花あけて系しと源し嵐山 樽良
 初さうく
 雨風の何れにひまよりまろし極 全

花 一

東山福山をあらわす
 四方のあしんさハうしにたけりか 全
 女嵐山はたけひく
 目さしおのりや花吹あろを大井川 全

言巻寺

花の上京燃し川暮の日和うふ 定雅
 寺室
 折くや橋からあくるま乃袖 美角

華頂山

井山く工佛成おむ花見く系

越後

畝司

お有りく取仙

越中

陸史

見おるはや花の上りま引ま

樽良

人おとろはうぬまを北山う路

畝司

勝月若別家り旅集

全

古手荷り付り振指鞘走り

樽良

傳りあ乃留き新川中

陸史

末畧

花二

清水ち

花盛む乃多成とふ女う耶

葦岸

志如き

老夫婦寺此さうの詠り如

序白

訪隠者

花多り可れく戸も有記菴い

半化

月下花

う流りや月にさし花の枝葉臺

題卷

誘り人うかろく花見りか

城南寺南

茶夫

退を又もかうりし風情の如
 棟やして下りたを花のゆふ魚分
 蒼々たる花さうり花あり夕の如
 谷の花をさうりすうり馬ふうり
 あうりりきをきのふは信州花の山
 いつらり花のさやく如くむ乃山
 きのふふ花より花を如くは母ふ
 昔より日のたふ花ふちをゆきまふ
 母にふり花小神も是うりをさうり
 花小うりき名うりしを似は嵐山
 良水 敬止 桃里 舍樹 青彦 有痛 龜友 春水 大石 南紀 宇外

花三

歌花

花のまや花流のうりひはるは
 花さうりし花中うりや花をいふ
 花切りの契に足るや花さうり
 白ゆり花を山乃も花は花
 夕うり花の本の花か花の如
 案して花さうりありひはるは
 咲はくく花はく乃言り如
 三月や花り列きり衣
 葦村 儿董 斗醉 こみ 加よ 甫尺 李音 園山

ささりく寝く死し起る落小
さゆらむやさうあてり言
日中や茶の上り鐘乃ち
うはくかや茶末合人魚
見丹しほかきしや風のむ
捨童
白化
漢良
茶荅
玄化

奇仙一折

大石
士川

歌よ免の初志ちりあふ
神し終子乃びくく山
蕪約し喜此厨に寄うみ
松の笠乃ちやうれし
橋良
士夢
川

花
四

落ももや赤よりしる船の月
垣ふりくねく折返し買黍
肌きくさうり蕪る朝の下
怪歌しと猿をえくきあく
おちりむ様くくぬれ日や
守りし流し君玉幸
私しと床の小口乃びすあまし
こやこきさう盛ありかり
霞のみにゆらん流をく喜の菊
高風うた取り歌をく吟
良
喬
川
良
喬
川
良
喬
川
良

田子此味唯々々ひあゆまをりさよ
門子幸々々々々あひさささ
大波ハ富士乃々々々々はるの月
春々々々々々々冬のかりりりり
喬 良 川

歌花

さくらさや夕日たりと枝の宮
岩橋をりつれもさの嵐うか
琴止さささりのあし何を恨む
吹あささささささ山路うか
舟のありさあ流に似たりるの花
竹也
梅父
袴仙
五九
素由
但州生野

花 五上

取のさいやさきハ灯の光りうか
ありつきやまきささむ乃ハま一を
はありひさささささん取の花
月の光りささささささ夜の手
ささささ取の明ささささ葉うか
紫刈乃るさささささささ見うか
花乃月境のほあささささささ
壁おりさささ風めさささささ
伴山
梨四
兔丈
栞志
文網
標里
凉秀
松童仙

大あやめほりさささ山さささ
日廣谷
挑如

菘中よかくく 菘の俣うね 二松
ちり様あそく 詠ささくく 大路

後よわとの人きぬまあり 花塗 日立殿 渡江
菘の敷よつてさそや神さくく 化塚

春之吟

物よそんきく入おのちる日小 但州出石 鳥並
あくくくくくあそ神田乃土家 撰琴
足陽道のきくく日あそくくく 北平
立中く 祇置造り乃き北月 如得

花 五下

玉味唾ふ碇乃足くく 菘の糸 猪艸
かハあり 我見さそく 朝の梅乃世 直生

うくひまや 春引延れ舌の先 日所 妻夫
静さやあほくく 梅に白くく 〇 総
うねくくく 小日のくく 神造のあそ 五 陶
菘の夜や尾上 我越ゆ 鐘の色 葎 堂

追き家人の名残やかえそめ 宿 日生野 松香仙
そくか や菘のこくく 女 鳥紅

常盤木よ色深くんや山さくく 淮路

げらくくと百歩つくと花見えんか 加州小本 一芥

花もむや西より向ふ音乃馬 波泉

咲つてく花より上のそりり如 車聖

我があはれおちりせしはくくか 百史

横雲のさくくにかの歌河 一芥 凡夫

横吹て通しおはまぬ花日か 岩下

夕ぐれやさくくのおうつる人乃歌 長河

昔此花をきくに會せし是りう如 止鳥

花七

よの中乃ん花くくさくくう如 汀西

あまふ玉成風工雨りきく是る歌 去路

くくおくく花くく花を初さくく 雨子

初花にうくくふ花の色をくく 聖人

くくおくく花も花はたよりにはきくく 魯真

夕ぐれやきくにはきくく花はくく 鳥跡

而のりや花にをめく色乃きく 可石

左方の花遠くくくちる音るり 夕市

門出のきくくめに花の花見う如 野上

月移る花子咲きハ花さくく 樗人

ちりあさや川のむらびのまねを
かゝるやまより出る物まね有
青鏡 松井

花さくく八日何ありのゆふゆふ
和 荃 日河北

後節を吹の花さくやたはけく
越 益

四五日八日おとくふ小満花うぬ
中 中

のとうさやさくく其の物煙り
青 雅

夕暮や松乃宮此や月さくく
胡 仙

里下り工日くふ一日さく物見うぬ
奥 春

花 八

花さくくさくく_{播州高砂}瓜 涼
さくく_{布舟} 布舟
あめく_{明石} 上 齡

花さくく山此_{江州八幡}可 昌

ちりあさ_菖 杜

花さく_江 涯

かきく_{同き時} 我 空

けし海の中は波其う様さく越後 波
 遠き中さきくはち山さく 燕々
 紫うきく魚く様ゆゆ 竹茂
 紫菜や勝乃りく丹後 其 陌

奇仙も

旅人のくく川門乃柳う那 栳良
 長りきさくくのおう其喜ゆ日 栳如
 龍退くく孤う解や吟ゆん 全

花九

そのくいかうくくと其く 良
 連歌師の考ゆくくゆ乃月 全
 宵戸の島くくくく 栳如
 彼岸よりあはくこの末或る後也 良
 其ゆくくありく寺の昔話ゆゆ 如
 吾風呂乃庭くくま号去跡く 良
 栳のりくくくく日さくく 如
 春乃代の友其あくゆを也 良
 留すれ事くくをわくくく 如
 燗くくくぬ意流のりく 良

岐阜乃和為久一うて遠
菱花う礫柏の山う干別
ま〜の列〜ま〜也

良 全 女

歌仙あま

飛うまの言くも梅乃胡あ〜
山々かまみ〜うのうけま
塔屋ふ谷乃社あ〜
〜〜あきまお髪〜
月の影ふ遠ふ子此物ふ〜

涼秀

櫻良

秀

花 上

箕の蜀黍あま〜
沖乃崎刈谷の沢此跡の風
故〜〜〜年あ〜
勢せりやうあ〜
ま〜かま〜
う〜ん〜
尺八の作乃ち〜
氏康の提才あ〜
あ〜
う〜向〜

良 秀 良 秀 良 秀 良 秀

高松の茶吹あられみ
法師とも指しりききき
而の胡蝶乃ちんか泣り
意もきききききき
権もきききききき
糸合の籠破うねをききき
くききききききき
其もきききききき
涙のそく村の気遠
若きも日松のうききき

良 秀 良 秀 良 秀 良 秀

花 十二

江戸をきききききき
たきききききき
西氏の燈籠きききき
月照きききききき
薪小かききききき
むききききききき
花のきききききき
涙のきききききき
戸の口ヤきききき
島田ハ妻此ききき

秀 良 秀 良 秀 良 秀 良 秀

い〜りき梅 寂々羊 植 良

花のよき作の成悔の日 寂う如 野州 宗居

而わ〜る花の 信令に けり小 蘿父

う〜る花の 勝の 乃乃月 野梅

山里に 鈴の 絶愛も 花若きき 竹處

静々中 花の 居〜る 庭の 月 茶州

昔の けりき 若うき けりき 花 又 不 卑詩

名に 美こむり けりき けりき けりき けりき 柱什

花 十三

花のよき作の成悔の日 寂う如 桂舟

而わ〜る花の 信令に けり小 臨文

う〜る花の 勝の 乃乃月 井蛙

山里に 鈴の 絶愛も 花若きき 子来 少年

静々中 花の 居〜る 庭の 月 斗時

昔の けりき 若うき けりき 花 又 不 魯然

名に 美こむり けりき けりき けりき けりき 十口

花のよき作の成悔の日 寂う如 貫魚

而わ〜る花の 信令に けり小 竜居

う〜る花の 勝の 乃乃月 自然

山里に 鈴の 絶愛も 花若きき 自然

森くく〜記而の森橋 森くく〜
 石風呂の煙乃中にちくさく〜
 夕山やさく〜此中乃多水亭
 里ハカク〜山亭を橋の早〜
 浦山や五明亭 暁さく〜
 高尾山やさく〜吹ち森 經 札
 あき月のく〜ふきゆ〜 森の山
 森くく〜地〜新く〜橋く〜
 ち〜なりの森に〜子の亭も〜
 北山やさく〜 弥生此 吹り 際

二曲 敬之 未 祢 魯 橋 羽 人 丘 古 幸 素 清 弘 目 故 吾

花 十四

暮山や森見ち〜海の人を 陸
 月く〜ぬ〜森見 此ちり 寺の 庭
 昔年の中 出逢は 秋 深き 木 見 木
 暁ちく〜乃 暁 暁〜 森の 日 散る 雨
 さく〜や 森〜 記 あり〜 山 橋
 杉 何れ〜 色 雨の 爪〜 森 見 木
 風 狂〜 志 志〜 森 乃 中 少 木
 森 あり 中 あり〜 ハ あり 森 あり〜
 森 居 下 人 あり〜 中 あり 花 の 山
 ち〜 森〜 ち〜 物 道 ハ 暁〜

秋水 素平 奇峰 序寂 冨至 序風 挑家 鷺聖 芦 蹊 洒 高

昔や川花のさき幸の如くうら
 花の蕾を煙乃ちりら花の中
 花の如く一葉の如く花乃山
 花の如く入る花の如く入る
 花の如く花の如く花の如く
 花の如く花の如く花の如く
 花の如く花の如く花の如く
 花の如く花の如く花の如く
 花の如く花の如く花の如く
 花の如く花の如く花の如く

楚竹
 箕夫
 千雨
 司木
 帝布
 鳥等
 蛭口
 土肥
 十境
 只浩

花十五

花の如く花の如く花の如く
 花の如く花の如く花の如く
 花の如く花の如く花の如く
 花の如く花の如く花の如く
 花の如く花の如く花の如く
 花の如く花の如く花の如く
 花の如く花の如く花の如く
 花の如く花の如く花の如く
 花の如く花の如く花の如く
 花の如く花の如く花の如く
 花の如く花の如く花の如く

素圃
 五湖
 秋江
 滄洲
 逸漢
 南河
 虎國
 何鳥
 雲子
 馬曹

月の夜乃花情手くく日粧うぬ
咲むやまのあ乃あ〜〜あのみ
ち〜花の向ふふ見切ら侍堂
鳥呼花を一日二日と成ニ乃り

新人
猪史
姑射
坡仄

花七日集終

花
終

年々尾

かたむく道ちりて成海れてまじりて
州の庭乃ゆらぬまじりての集えり
てなれしにちかれおにたれり
かたむく道ちりて成海れてまじりて
かたむく道ちりて成海れてまじりて
かたむく道ちりて成海れてまじりて
かたむく道ちりて成海れてまじりて

くちらひん

年ノ上

うたせの中れりのちり

あつたふとくらをうたれとふ

力金うたへる中乃毒の

やすまよつとふ

雪よくまほしきよま子う泥乃毒

破復ききききのけり

演せーれむー紙包よ勝着て

二牧うけふ橋のりよなを

標良

恭夫

甫尺

良水

秋露のこぼれ月乃落こころ
 酒も豆も腐も一夜の志
 瑞砂頬赤き夢の言の末の初夜なき
 悲しき山に小伴豆乃山中
 ありまのこぼれぬさしよ髪をけり
 板のうらみちふ芥子乃とて
 實残るたしみの総もさあ
 ち力断りてく 婿終りてさふ
 今たやふ世帯ハ茶色小之月
 きくくくあ乃こくく 始まる

東塘 雲裡 良 丈 尺 水 裡 良 丈 尺

年上ノ一

極也ー此編なることと長根子
 花乃ころりて旅りささく子
 暮成ちとせりて老うかきろや
 うらみす一羽亡きけりて鳴く
 買ひを乃さる歸小せり店の隅
 もり待たし ねとさしめふ
 横顔の初夜く髪をけりて
 色もながけりもふりさすけり
 堤より風ふきたくふ葉をけり
 りと夕陽く馬乃ひたりく

水 裡 良 丈 尺 水 裡 丈 尺

ちたまきと射果と障ふ敵のそ
 徳のあしき我金利とくくん
 雲龍ふ瀬と小斗の糸とて
 十ハカ乃月おろたたり
 福まき仕修み踊のま話をやに
 前おくまらぬ豆阿とのま麦
 るゆまけとふまれ古けと死
 顔つとくしきまふ乃堂ら
 さくむとく六つのまふと居り
 ままの小花乃りりいむいよまふ

水 裡 良 丈 尺
 水 裡 丈 尺
 水 裡 丈 尺
 水 裡 丈 尺

年上ノ二

維子たぐ山の朝うとまきとまき
 むおまきとまきとまきとまき

水 裡

鼓とやまきとまきとまきとまき
 柳乃りとのりりむくくく
 功半の障子を翳戸へまきまき
 と所おとりのま梳とま梳
 投出す足乃とまきとまきとまき
 海老のまきとまきとまきとまき

龍石
 標良
 花紅
 石良
 紅良

月夜やうし麻生時糸糺更れし
霞よりつと福し秋乃金川
誰より色志へ娘のものをばま
路中或よりと顔のゆきま
明くしり芝居をり本橋
言れ小結を念入しやく
阿うゆまのけり此舟のる待
死すのくまやけくし
月乃朝五世の跡よる
秋のたけおほくふふ糸下

石 紅 良 石 紅 良 石 紅 良 石

年上ノ三

帰くは花咲くいんのか
買ういのこのゆき
ふふをむすこのあ
昔井のきし
紅乃
乙乃
紙すきの
きく
あ
る

良 石 紅 良 石 紅 良 石 紅 良 石

しろくそ表の坊〜れ畠 緇
 名のきやう〜り月の秘〜
 秋乃情〜れ衣を列衣やらん
 たり〜れ玉を 燐〜りす
 旅〜死すた〜ま〜くを堀埋め
 さ〜死よくもふり新〜い〜き
 此〜乃心〜い〜く〜く〜く〜
 沙走のい〜ん再〜反〜す
 喰あ〜く〜大根茶けも旅の〜
 う〜祿〜〜〜〜〜
 紅 良 石 紅 良 石 紅 良 石 紅

年上ノ四

言らるる夜虫の水鏡先〜回ん
 飯ハ〜と〜れた〜の〜さ〜け
 枝〜〜田中の松の色〜して
 物場の筋乃〜〜〜〜
 草の月鏡〜〜〜
 ち〜〜〜と〜〜〜
 と〜〜子の物〜〜
 檀良
 普彦
 布舟
 良
 彦
 舟
 良

川中舟の梅座のまかりくやる
 細草のま麻をふくぬ物くま
 むうくくり或志をハ 伝ふ
 る乃日ふまり合をくちまんの系
 反古のくまふま乃下書
 しくろく色あふくま現くね
 志しきつて思お横うくし
 頭くくくくくくくくくくく
 四五并んくくの棒くくく書
 彦 良 彦 良 彦 良 彦 良

年上六

卯月十六日新米忌

あまのふくく

くくくくくくくくくくく
 移なくくくくくくくくく
 鶴くくくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくく
 月れくくくくくくくくく
 赤くくくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくく
 鳥 蕪嵐 櫻良 花鳥 嵐 春 鶯

きのこふ落した蛇はまきふ
 子本成つゝとりまをたふちあ
 彼れいのももるまあはくもく
 西風より耳をとふれく路のちく
 人ことせ帯ふふ長乃志を月
 落あくははくもく落のまひを
 ちくちくしけのひくくとさふ
 生くまもく出合を待はくこれ
 陽く入さふもくあふくはあは
 神あふく月やいさふた花乃雪

良 春 嵐 春 良 嵐 春 良 春
 嵐 春 良 春 嵐 春 良 春

年上ノ七

こふくの細小むすあまきふ
 子本成つゝとりまをたふちあ
 彼れいのももるまあはくもく
 西風より耳をとふれく路のちく
 人ことせ帯ふふ長乃志を月
 落あくははくもく落のまひを
 ちくちくしけのひくくとさふ
 生くまもく出合を待はくこれ
 陽く入さふもくあふくはあは
 神あふく月やいさふた花乃雪

嵐 春 良 春 嵐 春 良 春
 嵐 春 良 春 嵐 春 良 春

一さ取湯 登り身成り月
 くらちすれ親くさ度系秋の香
 祖父の悔く成くあさく秋 伴
 土器より 苺糖を 置く 板孔上
 白きさうささるをと 店下 納と
 ともくさ 荒のきくさ 酒 納や
 川のすくさ 人 味さ 春

泉 錢 良 泉 錢 良 泉

年上十

誹諧年尾集下卷

春之部

梅

りれむや 窓の障子 梅のけ イセ 猪史
 夕暮もや ともふつ 星の梅 越中 玉糧
 寝るふらや 梅白い 李音 洛
 梅ふさふさ 崔乃 後より 丸を 城南 蔡走
 ひくく 屋敷に 梅乃 白いのつ 浪 エチコ 欧波
 初らむや 子乃 山乃 子 初 阿列 李子園

りり里や山依住く梅乃たふ洛 浦尺
梅乃たふく居居ハゆきなく白くハリマ 主日蓮
梅うりり阿ふふあふ梅うまイセ 馬曹
二もくや枝うりり梅の志城南 良水
ふりや餅よと白き梅乃たふ 雲裡
みま乃結張り流しよえうなエチコ 宴池
松乃ゆきくしふしふ梅の花カ 魚春
梅のゆきふきくしふしふ梅の花イセ 花紅
志く梅やまきくふくく梅りた 櫻良

うき

年下ノ一

うき乃たふり小柳のたふりサ 行西
行もくしふしふしふしふしふしふしエチコ 竹茂
日更くしふしふしふしふしふしふし 良水
くくしすや系しふきのふしふしの色 浦尺
うきやうきやうきやうきやうきやうき 櫻良
うきやうきやうきやうきやうきやうきカ 波泉
うきやうきやうきやうきやうきやうき越中 野し
うきやうきやうきやうきやうきやうきイセ 松谷
うきやうきやうきやうきやうきやうきイセ 眞
うきのまきふきくしふしふしふしふし 雲裡

ふりそりしとくさきさき柳うな 竹茂
けり色くともくくくねやふねの 良水
と松をとるくくくくす柳城南 致止
美人うさひや柳くくくく明を愛 凡夫

蝶

花よりくくくくくくくくくく 眠うカ 岩下
ふりりや斬みくくくくくくく 猪史
ワ門くくくく秋の芽小夜ふくくく 汀画
己のくくくくくくくくくくくく 波泉

去り雨

年下ノ三

舟花や下弦あくくくくくくく 眠うカ 岩下
まきまきやうくくくくくくく 猪史
波ふくくくくくくくくくくく 汀画
くくくくくくくくくくくくく 波泉

陽炎

うけろくくくくくくくくくくく 眠うカ 岩下
ゆきやうくくくくくくくくく 猪史
くくくくくくくくくくくくく 汀画
かきめくくくくくくくくくくく 波泉

蛙

新人

花をよみやこころしとなく蛙 美示丈
 鳴るる山こころし向さふまきまは 甫尺
 エウ四ツの蛙さしやるれちり ^{オヌキ} 鬼湖
 松形や月なむくくちか蛙 可石
 鳴るるやあまのわみし蛙 標人
 けく蛙とくかたりまな行わふ 岩下
 濁るる田や夕のまねくちか蛙 雲裡

花

ちのりまや花よこる此月まは 一芥
 毎くや花あふあくを詩や 木子音

年下ノ四

花をよみし月まは花よみまは 標良
 花あふくはらまらふの隣る ^{イヒ} 島月
 風流くまはまらふのまは ^治 玄化
 花よこるまらふのまは ^{馬曹}

花をよみし

日にまらし月まは花よみまは 美示丈
 花あふくはらまらふのまは 良水
 花あふくはらまらふのまは 新人
 花あふくはらまらふのまは 野乙
 花あふくはらまらふのまは 標人

日ちちりやうもさのふの旗 雲裡
茶臼をふ人中 榎の脚まき エツ中 五貫
とつきやきくまきくあつた中 甫尺

駐混雜

梅柳のたき花のむくも 茶祭
細くふきや庭よんくむき 一八弁
若菜への裾はきつふや竈のふ 甫尺

古畑川の館ははりく

己く身はたつ山まこの小館くみ エツ中 陸史
サの地の物系ははりの

年下ノ五

梅枝のさくらさくらよのふひき
さくとさくらさくらさくら

一枝乃梅枝もふりきり 雲裡

さしくや中をきくすさくら
心けのまきくさけすけ
寺庫山やけすけあし類子
うさゆき細くあし類子
山寺の福らんまきくやまきく カ 鳥跡

二月ん浦まき

経和や止の嬉の月待乃あり 宇錦

栲相

世よりほやあはれいふも栲の舞^{イセ} 列橋
つらふく^{イセ}栲のおもひなきうら 美平丈
舞^{イセ}より面^{イセ}くはく^{イセ}栲の 野乙
栲つらふく^{イセ}あはれいふも栲の 櫻良
遠く^{イセ}あはれいふも栲の 禹月
つらふく^{イセ}栲のおもひなきうら 良水
栲川^{イセ}より^{イセ}あはれいふも栲の 萬化
かき^{イセ}あはれいふも栲の 名亭

年下八

あはれいふも栲の舞^{イセ} 長河

田極

田を極ふよりくま^{イセ}水^{イセ}の 泰夫
村^{イセ}や^{イセ}い^{イセ}は^{イセ}ふ^{イセ}田^{イセ}の^{イセ} 百史
と^{イセ}あ^{イセ}は^{イセ}御^{イセ}事^{イセ}な^{イセ}ま^{イセ}れ^{イセ}田^{イセ}極^{イセ}の^{イセ} 汀画
極^{イセ}く^{イセ}の^{イセ}田^{イセ}を^{イセ}極^{イセ}ふ^{イセ}早^{イセ}の^{イセ}舟^{イセ} 玄化
仕^{イセ}た^{イセ}り^{イセ}極^{イセ}の^{イセ}中^{イセ}の^{イセ}田^{イセ}極^{イセ}の^{イセ} 松堂
極^{イセ}極^{イセ}より^{イセ}あ^{イセ}は^{イセ}れ^{イセ}い^{イセ}ふ^{イセ}入^{イセ}り^{イセ}ふ^{イセ} 可石

淀川や舟くさ田植くさるる野菜タワラ
七篠乃りりりイセ田植くさイセ土肥
植ふふさるるぬり山田家 新人
遠よりや神宗連く田植家 松井

年一しぬ

くさくさ神宗やきくも北野近所イセ古也
中りあやぶくくくくくイセ菫の子 玄化
さみくねわくくくくくイセ捨童
くさくさ川より濁るふり分也足
きくくく蜀黍少者やさ川まはり 下島

年下九

古くやも供く何くもくもく関夫
中りくもくくくくく月く雲桂

蓮

あふ新や葉くくくササのくく今 樗人
あくのひくくあかきくわくく雲裡
あふくさるるさくくくササの都カ勇司
風は海くさあも何くくくくさくく右也
あつてくく蓮あもん何くくく右枕石
水は海はくくくくく蓮く良水
くさくさやん都くくくくく桂舟

花の中 小月 紅袍 蓮うな 蕙山
秋の 傳 手 甚 乃 さ けり かな 多之

蟬

山 幸 中 涼 中 一 印 けり 蟬 の 声 良 水
出 瑞 一 蟬 鳴 けり 山 根 系 木 音
風 危 く 蟬 鳴 けり の 声 けり 多 夕
幸 中 板 や 一 八 中 此 蟬 の 声 馬 曹
山 けり や 子 所 けり 上 乃 けり 笑 静

細涼

風 幸 中 月 白 けり 蟬 鳴 けり 門 下 一 馬 曹

年下十

涼 一 幸 中 一 蟬 鳴 けり 門 下 一 馬 曹
幸 中 涼 中 一 印 けり 蟬 の 声 良 水
出 瑞 一 蟬 鳴 けり 山 根 系 木 音
風 危 く 蟬 鳴 けり の 声 けり 多 夕
幸 中 板 や 一 八 中 此 蟬 の 声 馬 曹
山 けり や 子 所 けり 上 乃 けり 笑 静

桂舟

竹枝

標良

雪人

秋江

松堂

一 蟬

白化

山 下

良水

滝や川にそそぐ八幡は浪涼一
涼しき川を渡るふるの市川外
雲はけりくくあまの裾家れ涼く
かき水やともく涼き水も
涼しき川を渡るふるの市川外
岩下
鬼湖

田舎

すみ川を渡るふるの市川外
涼しき川を渡るふるの市川外
市尺

野混雑

水も川を渡るふるの市川外
江戸画

年下十一

そいん乃麻屋
もれいふのそく涼き水も
米搥乃搥りてそくぬ扇
袖れももそく涼き水も
きりくきりやそく涼き水も

入信山眺を

月も川を渡るふるの市川外
まろおよも川を渡るふるの市川外
まろおよも川を渡るふるの市川外
まろおよも川を渡るふるの市川外
まろおよも川を渡るふるの市川外

松屋
雲之庄
宇綱
古音
茶末
樽良
二尊司
万化
樽人

長河
康在
羅父
樗良

秋風

箕天
松堂
竹宇
樗良
卷之

三下ノ十三

一斗
雪人
呉帆
猪史
禹月
馬曹
仙魚

痛中

坡反
一芥

月おほく 今よりおききふ日れ終 甫石
くまきくや風はゆきく月の裏 松井
すけいおほくしおふ月れさきりふ 茶苔
しんしんのちんていひんふくふの月 不菴

江戸や

とくしんきんかきーはるれ月 良水
きんきん乃たらららら月のわらわ 雲裡
しんきんわらわららら月かへんふ 宇綱
しん風乃けららかきさささささささ 禿良

花

年下ノ十五

まあしーとーあうあうーは麻の面 雪華
まきとくや魚くくくくくく 馬曹
戸はわくくくくくくくくく 良水
ゆめわらわららららららら 岩下
ーかのけいせいせいせいせいせい 島月
面をー張くくくくくくくく 吹司
えくのまきや今ささささささ 箕丈

馬

河くゆや落るるるるるるる 雲裡
おほくや月れゆきゆきゆきゆき 極良

酒浪やまゝのこゝろふらふれ居 萩由
岸移りかゝるくくよす戸のきつ本 恭夫
屋まゝのやせくまゝのむふ丁の上 甫尺

秋雨

ものまゝやともはつてふれ入る 鳥跡
秋のよとかりくははまおのむえんじ 馬曹
川あつちや浪杵なまふ秋の何れ 凡丈
夕ささや相のまゝよつのはれのゆ 李音
紅葉
りれらちやみぢあつくふせぬもみち 甫尺

年下十六

谷川やたちものもとらむらつを合か 魯魚
大糸や牛れりふてぬ文もいら 琴う菴
漲乃みそまもいらふらうつりふ 野し
日小流しにくみおれらふりくらしき 園山
吹むらすはまや腕乃くちうす 凡丈
夕ささやみそまもみふ人乃流 良水

吾妻

人まゝくさしきふやふむむむ 李音
みぢあつちの岩の中さしきむむむ 猪史
堤川やむらさき訪いしふ者まゝ 禹月

つらやまの山に神の御座りて
杉の戸に月を照らして
門は乃ち松のうへへ
静さし心も静なり
一膳 漢良 甫尺 茶蒼

題混雜

隣ともあはれぬ夜のきりぎりす
春をものりやも悲しき一峰
良水 泰丈

湖水絶句

山も水もとまらぬ
朝も夕もあはれぬ
標良 新人

年下十七

かりぬはうらうら
りわしむさきね
馬曹 甫尺

冬之部

町友

かきとくさし
初雪のまじり
まうちうが
きくおや
養角 標良 雲裡 竜石

全得成行のくみしり山守の 膏尺
志しくと増さくわい入ふ何の下 卷末
重なりともんやせの魚よやれゆゑ 玄化
しれ中に見ぬこりおこりそる 冷五
何りともやんもさふ人しおのる 良水
行くら中雪れとたるおしき 右貫

枯声

昔と枯くまふんしとされ堤之部 桂舟
枯行し中様しとる包のたれ山に 卷末
うとまきしり山守のたれ山に 志得

年下十八

子鳥

かと川やまふたふの山守子鳥 圃山
岸を飛くまふたふの山守子鳥 東松
昔とまきしり山守のたれ山に 一芥
友子もまふたふのたれ山に 汀画
門川や往來人さそくもく後 樗人
鳴や子もまふたふのたれ山に 甫尺
左のや門口しむくたれ山に 良水
はくしり山守のたれ山に 柏史
今に得しり山守

清きしらんを御日のとらふまじり 標良

霜

萎れりや 妻のねをけし初の家 元夫
朽らつゝまをくけし ちよのあか 園山
細舟より ちよのあか 一の目 雪人
海より ちよのあか ちよのあか 芦葛
しんちや ちよのあか ちよのあか 柳尺

修験

こころや 垣のけしをみまの 茂松
みまのあか ちよのあか ちよのあか 富葉

年下十九

みまのあか ちよのあか ちよのあか 柳尺
ちよのあか ちよのあか ちよのあか 富葉
ちよのあか ちよのあか ちよのあか 北鳥

雪

野の雪より ちよのあか ちよのあか 柳尺
雪の文より ちよのあか ちよのあか 富葉
松竹の雪より ちよのあか ちよのあか 北鳥
ちよのあか ちよのあか ちよのあか 柳尺
ちよのあか ちよのあか ちよのあか 富葉
ちよのあか ちよのあか ちよのあか 北鳥

ききしたることありぬと所の定雅
夕きしれりしなすれたの君 茶丈
けしむほのや言つともありし松の音 聖裡
あ月やさあをるるまよりの乳 馬曹
雪うしむるの清りあふれり 櫻良

あきの月

吹すしん梅るるやししきの月 備布
移るしきのぬらぬれもれ月 百史
うたえししゆ心むらりしきの月 箕六丈
評すしん

年下ノ升

おとろきと唱ふさしと評即 冷五
若きらしく回向くわゆる評即 良水
月の中り評すしんや評すしん 茶丈

題混雑

菖ろしん細言川ろあふ 波泉
しめしんしきあふしん此里評即 松壽
しめしんしきあふしん此里評即 李音
飾つしんやる中れ屋ろあふ 申尺
めしんしんしんしんしんしんしん 茶丈
そしんやあふしんしんしんしんしん 一弁

志保やソノ山をたれまゝとて今伊イテ名守
 ありあけ庭よりうはまむさふをあら
 ずしむさやゆい清きつゝまをま
 けりて取らる櫛ちよゆれをまふ
 清きつゝもたけい海まのともま
 世の中にたまふやうにわら
 夕飯や絵つゝゝに様ほい
 けりてや縁さみす小年忘是
 櫛良
 良水
 恭丈
 甫尺
 櫛良

得魚辛暮

年尾集終

年下ノ所

近きことと標るは史乃古きことと所を
 多しよとせ人の物すもや門人此や
 か〜〜〜けり寸は〜〜〜みり〜〜〜て
 我庵乃〜〜〜終〜〜〜に在の物
 あ〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ
 中其志の〜〜〜や〜〜〜彼〜〜〜あ〜〜〜
 子地あ〜〜〜た〜〜〜ふ冊〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ

寛政五年
 夏

玄化堂
 甫尺

年ノ上

標良發白集	二冊	日文集	一冊
日向台合集	未刻	一冊	一冊
標良拾遺	未刻	二冊	大意辨
標良	麦水	廿村	全二冊
中興	六家集	全二冊	
寛政五	癸丑	仲夏	
皇都書林			
菱屋	孫兵衛		
梅村	伊兵衛		
菊舎	太兵衛		

